

助動詞の研究

出版以来30年近く受験参考書としてのベストセラーである伊藤和夫の『英文法頻出問題演習』駿台文庫(旧版)にたしか、こんな解説があったと記憶している。

動詞の現在形は一般的事実を表すことがある。

これをみたときに考えたのである。まず一般的事実とは客観的事実であろう。客観の反対語は主観であるから、客観的事実に対するものとして主観的事実が存在することが予測された。そして、文というものには主観的なものと客観的なものとの2つに分類されることに気がついたのである。そこで主観的事実を表現する文はどのような文であるかが気になった。

しかしながらなぜ**動詞の現在形は客観的事実を表すことがある**のであろうか。例文を検討してみると、その**客観的事実を表す**例文には概して助動詞がないことに気がついた。これは**動詞の現在形は客観的事実を表す**のではなく、**助動詞のない文が主観性をもちにくい**のではないかということに気がついたのである。